



3

本年度は、批判的思考力や科学的思考力の基礎となる「事象や現象に対して疑問を持つ力」を育成するとともに、社会の動きや地域の出来事に関心を向けさせることを目的に、2学年の朝学習の時間で次のような取り組みをしている。

人が理解することが副次的に求められることになり、多くの学びや気付きを得る活動となる。年間を通じ25回程度を予定しており、現在のところ、生徒は意欲的に取り組んでいる。

1学年国語科では読解力向上のための週間課題の題材として、2学年学校設定科目「課題研究Ⅰ」では国際関係を学ぶ題材として、新聞の活用を行う。さまざまなかたちで新聞を活用しようという動きが生まれている。

(気仙沼高教諭 三嶋広人)
 第1週掲載

疑問調べ互いに説明

本校では「海を素材とするグローバルリテラシー育成」東日本大震災を乗り越える人材をめざして「を目標に掲げ、課題研究活動を中心に学校活動全体からNIEにアプローチしている。

昨年度は、1学年の学校設定科目「地域社会研究」で、地域に関係する新聞記事の展示や、東日本大震災、熊本地震などの節目の日の新聞記事読み比べをできるようにした。その記事をきっかけに、オンライン新聞検索でさらに関連記事を調べたり、疑問点を調べたりすることで、研究内容を充実したものにすることができた。事後アンケートでは、4割の生徒が利用したことが分かった。

水曜日に新聞記事を選んでノートに貼り、疑問点を三つ挙げる。ノートを近くの人と交換して、次週火曜日までに相手の疑問点を調べてくる。そして、火曜日の朝学習の時間に、相手の疑問点について調べた結果を互いに説明し理解してもらい、その後自分で選んだ記事に感想やコメントを記入する。

新聞記事を選び、自分の意見を書くという活動はよく見掛けるが、そこにひとひねり加えることで、本人が関心を持っていなかった記事にも触れることができる。相手に伝えるために、まずは調べた本

メモ 気仙沼市常楽130。小山淳校長。全日制課程679人。2005年4月に創立77年の旧気仙沼高校と81年の旧鼎が浦高校が統合し誕生。16年4月に文部科学省からスーパーグローバルハイスクールに指定された。18年4月に気仙沼西高校との統合が予定されている。



朝学習のこのコマ。調べてきたことを相手に説明する生徒

気仙沼高